一般社団法人
日本精神保健看護学会
Japan Academy of Psychiatric and Mental Health Nursing

News letter

第95号 2023年2月16日

一般社団法人 日本精神保健看護学会

第33回学術集会・総会にむけて

第 33 回学術集会会長　船越　明子
（神戸市看護大学）

第 33 回学術集会・総会は、「精神保健看護がめざす多様性と包摂性の実現に向けて」をテーマに、2023 年 5 月 13 日（土）・14 日（日）の両日に亘り、会場（神戸国際会議場）とオンデマンド配信を用いたハイブリッド形式で開催します。主要企画は、トラウマインフォームドケア、ポジティブ心理学、ネット依存など今注目されている話題や精神科病院での看護を見つめなおすような講演およびシンポジウムとなっています。理事会企画では、自殺対策や精神的危機の対応に寄与するこころの健康サポーターの養成に厚生労働省が力を入れていることをふまえて、我が国のメンタルヘルス関連政策と本学会の役割について取り上げることとなりました。一般演題・ワークショップも、多数の演題登録がありました。企画の詳細は、WEB サイトに随時情報をアップロードしていきます。

With コロナの学術集会としてハイブリッド開催が主流となりましたが、実際に会場に足を運んで講演を聞いたり対面での交流をもったりすることで五感が刺激され、新たなひらめきにつながるように感じます。ぜひ、会場へ足をお運びください。神戸の海と山、そして街が皆様をお迎えいたします。

最新の知見と活発な意見交換があり、刺激にあふれる学術集会をめざし、企画委員・実行委員一同、力を合わせて準備をしております。前期参加登録には、特典がございます。

例年より 1 か月早く、年度初めの慌ただしい時期ではございますが、会員の皆様のご参加をお待ちしております。

第 33 回学術集会・総会のご案内

開催概要

テーマ　　精神保健看護がめざす多様性と包摂性の実現に向けて
会　期　　2023 年 5 月 13 日（土）・14 日（日）
オンデマンド配信：2023 年 5 月 25 日（木）～ 6 月 30 日（金）
会　場　　神戸国際会議場（〒 650-0046　神戸市中央区港島中町 6-9-1）
WEB サイト　http://japmhn33.umin.jp

参加登録

1．参加登録期間

前期参加登録　2023 年 4 月 2 日（日）まで
〈前期参加登録の特典〉**前期参加登録がオススメです！**
・プログラム集を現地開催日前にお手元に届くように郵送いたします。
・電子データ（PDF）の抄録集に加えて、ご希望の方は冊子体の抄録集をご購入いただくことができ、現地開催日前に郵送でお受け取りいただけます。
・ご希望のワークショップに優先的に申し込むことができます。

後期参加登録　2023 年 4 月 3 日（月）～ 6 月 19 日（月）
※後期参加登録をされた方は、電子データ（PDF）の抄録集をダウンロードしていただくことができますが、冊子体の抄録集を購入していただくことはできません。

2．参加費

前期・後期参加登録の参加費は同額です。

会員	8,000 円
非会員	10,000 円
学生 *	3,000 円
当事者・家族	1,000 円
抄録集（冊子体の事前送付）	2,000 円

*「学生」とは、看護基礎教育課程に在籍中の方です。大学院生等の方は、会員または非会員のいずれかでお申込みください。

3．申込方法

WEB サイトよりお申し込みください。本参加登録はクレジットカード決済のみとなります。

主なプログラム

下記の他にランチョンセミナーも企画しております。詳細は WEB サイトにてご確認ください。

会長講演　５月 13 日（土）
「精神保健看護が目指す多様性と包摂性 ～生きづらさを抱える人たちに何ができるか～」
演　者 : 船越　明子（神戸市看護大学 教授）
座　長 : 萱間　真美（国立看護大学校 校長）

特別講演　５月 14 日（日）
「精神看護におけるトラウマインフォームドケアの視点」
演　者 : 亀岡　智美（公益財団法人ひょうご震災記念 21 世紀研究機構兵庫県こころのケアセンター
副センター長兼研究部長）
座　長 : 畦地　博子（高知県立大学　教授）

教育講演　５月 13 日（土）
「ケアをするためのエネルギーチャージ - セルフ・コンパッション -」
演　者 : 秋山　美紀（埼玉県立大学 教授）
座　長 : 宮本　有紀（東京大学大学院 准教授）

招待講演　５月 14 日（日）
老いへの適応とウェルビーイングの実現
演　者 : 増本　康平（神戸大学大学院 准教授）
座　長 : 遠藤　淑美（鳥取看護大学 教授）

市民公開講座　５月 13 日（土）
「スマホ時代の子どもたちのために～スマホ依存に焦点を当てて～」
演　者 : 竹内　和雄（兵庫県立大学 准教授）
座　長 : 森　　千鶴（東京医療学院大学 教授）

理事会企画　５月 14 日（日）
「我が国のメンタルヘルス関連政策と日本精神保健看護学会の役割」
シンポジスト :
　西　大輔（東京大学大学院 教授）
　瀬戸　屋希（聖路加国際大学 教授）
　安保　寛明（山形県立保健医療大学 教授）
座　長 : 岡田　佳詠（国際医療福祉大学 教授）

シンポジウム１　５月 13 日（土）

「精神科病棟の看護を考える – 患者虐待防止に向けて –」

シンポジスト :

　前田　　潔（神戸学院大学 教授 / 神戸大学 名誉教授）

　岡谷　恵子（四天王寺大学 学長補佐兼看護学部長）

　林　亜衣子（神戸 AI 法律事務所）

座　長 : 吉浜　文洋（元佛教大学 教授）

シンポジウム２　５月 14 日（日）

「社会的包摂の実現に向けて精神保健看護ができること – 孤独・孤立への支援 –」

シンポジスト :

　小瀬古伸幸（訪問看護ステーションみのり 総括所長）

　登坂　真代（手作りおやつ工房とさか 店主）

　山本　裕子（認定特定非営利活動法人シェア = 国際保健協力市民の会・在日外国人支援事業担当）

　森田久美子（立正大学 教授）

座　長 : 安保　寛明（山形県立保健医療大学 教授）

理事長声明発出後の報告

理事長　安　保　寛　明
（山形県立保健医療大学）

日本精神保健看護学会の理事長としての任期もあと数か月を残すところとなりました。皆さんとは神戸で開催される第 33 回学術集会の時にお会いできることを心から楽しみにしています。

さて、このニュースレターでは、2022 年に発出した 2 つの理事長声明のその後のことを報告します。

1）ウクライナ危機における人道的支援への声明　に関して

昨年 2 月にはじまったウクライナ紛争は長期化する可能性が高くなってきています。私は「ウクライナ危機における人道的支援への声明（2022 年 3 月 11 日発出）」を通じて人道的立場からの支援を目指す旨を表明しました。その後、ウクライナから欧州などの世界各地に避難している避難者への支援に役立てるために、東日本大震災の際の避難者の健康面の影響に関するレビュー論文を整理しました。その知見を、2022 年 10 月 13 -15 日に開催された東南欧州精神保健学会において、以下のタイトルで公演しました。

Keynote lecture: Physical and Mental Effects and Support for People Deprived of Their Homes: Findings from Ten Years after the Nuclear Power Plant Accident in Japan

上記のプレゼンテーションでは、大規模なコホート調査の結果を中心にプレゼンテーションし、肝腎機能障害のリスクや K- 6 得点の長期推移、保護要因としての社会的交流を紹介しました。また、福島などの被災地で行われたこころのケアセンターなどによるアウトリーチ支援や本学会の取り組み（精神科病院で働く人のためのマニュアル、遠隔支援ガイドライン、災害対策委員会の存在）をプレゼンテーションに含めました。

なお、この講演に関する貢献をしてくれたのは、若手の理事・代議員から以下の 4 名でした。

寺岡征太郎、矢山壮（以上理事）、千葉理恵、田中浩二（以上代議員）

2023 年 3 月にはウクライナの隣国であるルーマニアに赴き、同様の講演を現地の医学生、若手医師、看護学生などに行う予定です。

2）神出病院における虐待事件への声明　に関連して

10 月 10 日までプロジェクトチームのメンバーを募集しまして、本学会の会員 36 名が参加してくれています。参加メンバーの意見を集約するなどしていて、できるだけ私の任期中に神出病院事件を念頭に置いた報告・提案を発行したいと考えています。また、第 33 回学術集会でもシンポジウムやワークショップで精神医療の場における権利擁護に関することが扱われる予定です。ぜひ会員の皆さんにも、神戸で行われる第 33 回学術集会へのご参加とご関心を頂きますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

3）国民健康づくり運動に関する学会の関与

厚生労働省が健康増進事業の指針としていく国民健康づくり運動に関する次の 4 年間の計画策定に向けた議論が開始されています。日本精神保健看護学会は、この国民健康づくり運動に関する計画作成に向けた専門委員会にメンタルヘルスに関連する目標や指針の強化が必要という意見表明を行いました。

このニュースレターが発行される頃にも国民健康づくり運動に関する意見表明を行い、精神保健に関する政府や自治体の取り組みが充実するように働きかけていきます。

この続きは、第 33 回学術集会で紹介したいと思います。ぜひ皆様、学術集会へのエントリーをお願いします。

市民向け web セミナーの動画を HP にアップしています

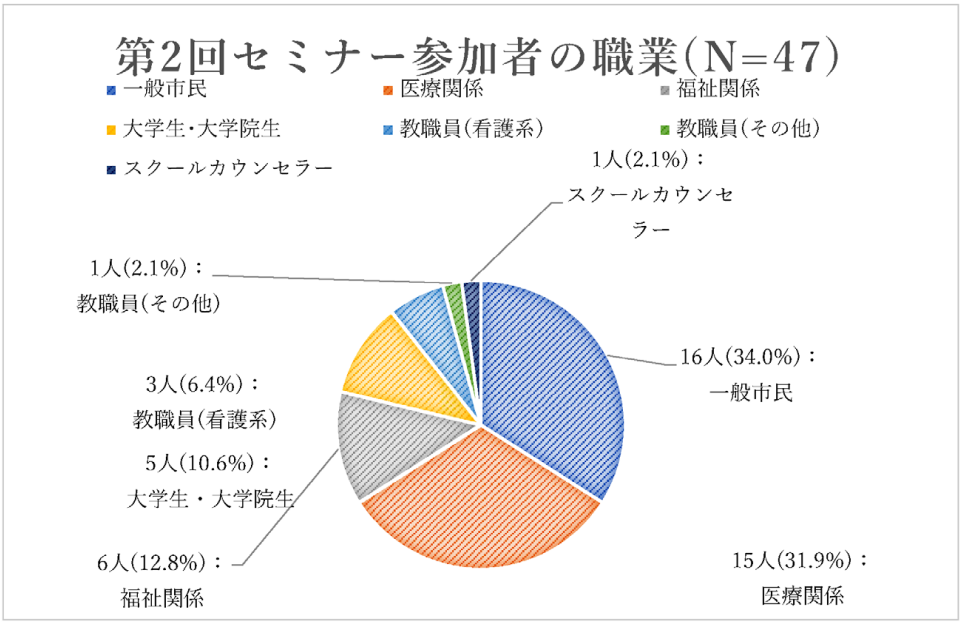
社会貢献委員長　香 月　富 士 日
（名古屋市立大学）

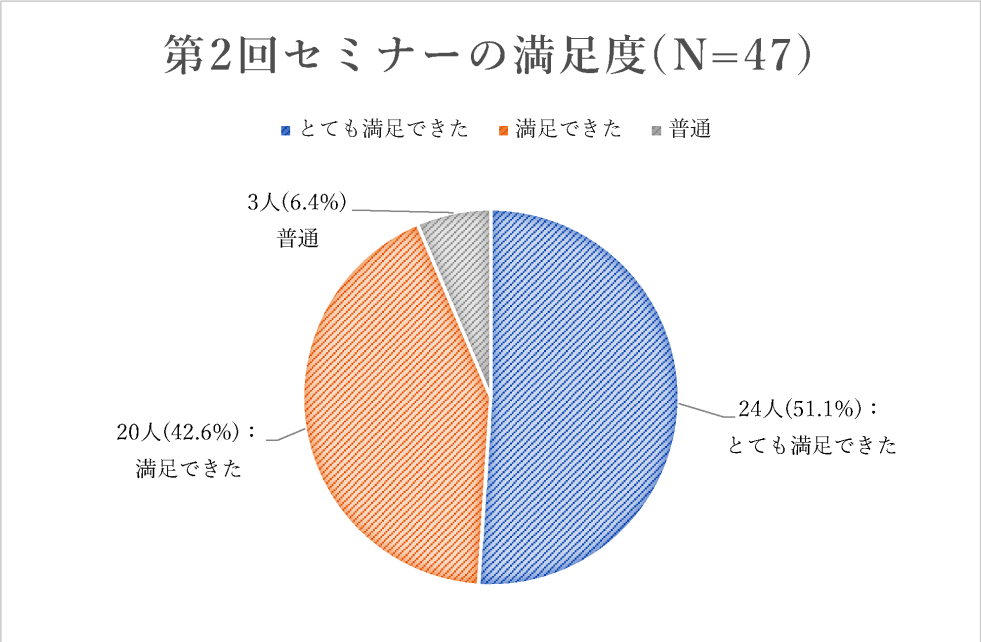
社会貢献委員会では、下記の通り全４回の一般市民の方を対象とした web セミナーを開催しております。（参加費無料）

すでに終了した１回目と２回目の講演につきまして、動画を本学会ホームページに掲載しております。すでに、どちらも 100 回以上の閲覧があったようです。今年度中は閲覧可能ですので、どうぞお近くの市民の方々にご紹介くださいますと幸いです。

		テーマ	講　師
第１回	７月 30 日 （終了）	眠れずに困っているあなたへ	香月　富士日 （名古屋市立大学）
第２回	10 月１日 （終了）	窮屈に感じているあなたへ	安保　寛明 （山形県立保健医療大学）
第３回	１月 28 日 13 時 ～ 14 時	楽しく食べたいあなたへ	宮本 有紀 （東京大学）
第４回	４月 22 日 13 時 ～ 14 時	ついつい怒ってしまうあなたへ	社会貢献委員会

第２回目「窮屈に感じているあなたへ」は、おかげさまで 70 名の参加がありました。今回も第１回目と同様に、一般市民の方だけでなく、医療関係者や福祉関係者など幅広くご参加いただいていたようです。アンケート結果では、多くの方々に満足いただけたことがわかりました。





アンケートでいただいた感想の中からいくつかご紹介いたします。

- とてもためになりました！また参加したいです。
- 自分が窮屈に感じていたことを自覚できた。どのように対応すればよいか、知ることができた。
- 短時間ではありましたが、非常にわかりやすく、日々の臨床（心理職です）に、とても役に立つ内容でした
- 気軽に参加できる雰囲気が、とても心地よかったです。ありがとうございました。
- 人とのつながりが大切なことはわかるのですが、精神疾患を持つ家族には、それが一番難しいです。時には、人とつながっていなくてもいい方法があればと思いました。肯定的な聞き方をする方法は、是非参考に致します。有難うございました。
- 意思決定支援や肯定的な聞き方など、看護援助として普段看護学生に教えているような内容も多かったのですが、安保先生のように教えてあげると学生たちが実習場面で使えるようになるかもしれないと思いました。とても参考になります。

参加者のご感想を読ませていただき、ひとりの狭い世界で考え込んでいるより、他の人のちょっとした工夫を知ることで気持ちが楽になったような印象を受けました。第３回は宮本有紀先生の「楽しく食べたいあなたへ」のご講演になり、楽しみです。また、第４回目は委員会で企画しています「ついつい怒ってしまうあなたへ」となります。どちらもすでに多数のエントリーをいただいているのですが、人数制限もほぼありませんので、お近くの方々にもご案内いただけますと幸いです。（詳しくはホームページ）よろしくお願い申し上げます。

編集委員会からのご報告

編集委員長　畦　地　博　子
（高知県立大学）

1．「精神科病院で働く看護師のための災害時ケアハンドブック」の引用報告

『精神科病院で働く看護師のための災害時ケアハンドブック』の一部がプチナース 2022 年 10 月号（第 31 巻第 10 号）に掲載されました！

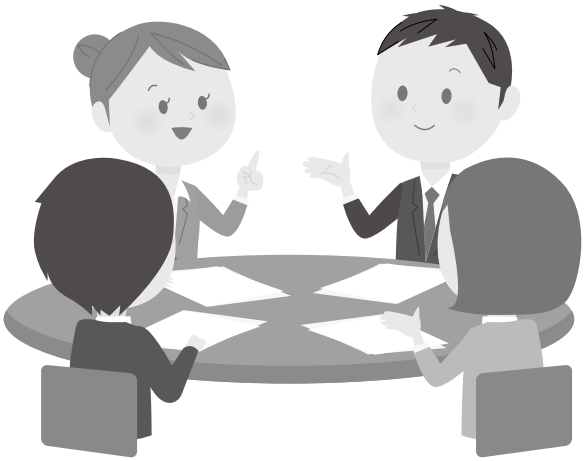
ハンドブックの一部が、プチナース　国試対策の回答資料として掲載されました。ハンドブックの内容が対応の基本をおさえたものになっていることが掲載につながったと考えております。もし、まだ『精神科病院で働く看護師のための災害時ケアハンドブック』を見ていない方がいらっしゃいましたら、この機にぜひ一度ご覧ください。

一般社団法人日本精神保健看護学会 HP：https://www.japmhn.jp/doc/carehandbook.pdf

2．日本精神保健看護学会誌の投稿規定の改正

2022 年 11 月より　投稿規定の一部が改正され、原稿種別「資料」の枚数が 10 枚以内から 16 枚以内に増え、同時に和文要約が必要となりました。

2022 年 11 月、編集委員会では、委員会活動の内容を明示化するため、編集規定を制定するとともに、査読ガイドラインの見直し、投稿規定の見直しを行いました。その過程で、多くの会員の皆さまに投稿していただき、できるだけたくさんの研究論文を学会誌に掲載していけるよう見直しを行っております。そのひとつが「資料」の枚数制限の増加です。以前より枚数制限が厳しいというお声をいただいておりましたので、少しでも投稿がしやすくなればと考えております。また、制定された編集規定、修正された査読ガイドラインも学会ホームページに掲載いたしました。ご覧になり、論文作成時の参考にしていただければ幸いです。



精従懇の声明発出について

学術連携委員長　松　下　年　子
（横浜市立大学）

当学会は精神保健従事者団体懇談会（精従懇）の賛同団体です。精従懇では精神保健・医療・福祉の従事者団体が、職種、職域、専門性の違いを超えて情報交換や討論を行なっており、学術連携委員も２か月ごとに開催される懇談会に参加しております。

精従懇から 2022 年 12 月３日に声明が発出されました。一方、12 月９日に参議院本会議で、精神保健福祉法の改正案が可決成立しました。これは障害者総合支援法、難病法、障害者雇用促進法、児童福祉法の５法を一括審議するいわゆる束ね法案で、充分な議論が尽くされないことが懸念されていました。そこで精住懇は、精神保健福祉法の改正について、医療保護入院の見直し、精神障害者の権利擁護等の慎重な議論を求めるため、参議院の本会議および厚生労働委員会の日程にあわせて発出したわけです。

関連する動きを振り返ってみます。2021 年 10 月から 2022 年６月まで「地域で安心して暮らせる精神保健医療福祉体制の実現に向けた検討会」が開かれ、精神障害者の権利擁護、虐待防止の取り組みなどが検討されました。隔離・身体的拘束の議論もありましたが、最終的に「不適切な隔離・身体的拘束をゼロとする取組」の、不適切の内容が明らかにされないままでした。また、一度は医療保護入院の廃止の方向性が打ち出されましたが、その後の進展がみられませんでした。８月には国連・障害者権利委員会における日本審査が実施され、９月に総括所見が示されました。ここでは、心理社会的障害（精神障害）のある人の強制的な扱いを正当化する不当な法的規定の全面的な廃止が勧告されています。

今般の法改正では、家族の意思表示が明らかでない場合にも市町村長同意が可能になるなど医療保護入院が増加する懸念もあり、家族の負担加重と患者の権利擁護に言及した附帯決議がつきました。このような中、精神保健看護に携わる私たちにも、今まさに課題解決に向けた真摯な論議が求められているといえるでしょう。会員の皆様でいろいろな意見交換ができるとよいですね。

理事会報告

総務委員会　矢　山　　壮
（関西医科大学）

2022 年 9 月 10 日、10 月 22 日に 2022 年度第 3 回、第 4 回の理事会を開催いたしました。

●第 33 回学術集会の準備を進めています。4 年ぶりの現地開催を予定しております。事前参加登録が始まっていますので、詳しくは HP をご覧ください。また、理事会企画では「我が国のメンタルヘルス関連政策と日本精神保健看護学会の役割」をテーマに準備を進めております。

●表彰制度について準備を進めています。具体的なことにつきましてはこれから決まっていきますので、あらためてメール配信やホームページなどで皆様にご報告いたします。

会員交流会について

日本精神保健看護学会の会員同士が、コロナ禍において学術集会以外にも交流の機会をもつこと、精神保健看護分野のテーマについてディスカッションすることで、人脈形成や情報交換を通じた精神保健看護学の発展に寄与することを目的に 2022 年度より月一回程度の会員交流会を開催しています。以下の開催を予定していますので、是非ご参加ください。詳しくは学会 HP のマイページのお知らせをご覧ください。

第 11 回　2023 年 2 月 13 日（月）18：00 － 19：15

「精神障害者の権利擁護について」

第 12 回　2023 年 3 月 13 日（月）20：00 － 21：15

「理事長イタリアからこんにちは」

第 13 回　2023 年 3 月 28 日（火）18：00 － 19：15

「第 33 回学術集会を知ると何倍も面白い」

マイページのメールアドレス登録のお願い

本学会の活動、他学会・団体からの情報などを定期的に登録しているメールアドレスにメールを送信しています。もしメールが届いていないなどありましたら、学会 HP のマイページにて会員情報の登録内容をご確認ください。

広報・情報委員会からのお知らせ

～ニュースレターは「e-Mail ニュースレター」へ移行します～

広報・情報委員長　寺 岡　征 太 郎
（帝京大学）

広報・情報委員会では、年間 3 回程度、ニュースレターを発行しています。
本会が設立された 1991 年に発行された創刊号から 86 号（2019 年 11 月発行）までは、ニュースレターを郵送で全会員にお届けしていましたが、移行期を経て 87 号以降は PDF 化したニュースレターを会員メーリングリストで配信するようになりました。
（現在は、創刊号以降すべてのニュースレターを PDF 化しましたので、ホームページで自由に閲覧いただけます）
ニュースレターには、毎年開催される学術集会・総会のプログラムが掲載されており、各回の講演テーマ、交流集会や一般演題のタイトルなどを振り返ることができます。
また、各委員会の活動報告やお知らせ、理事会からの報告なども掲載されており、精神保健看護の時代の流れを感じ取ることもできます。
このようにニュースレターは、本会の活動内容を会員の皆様にお知らせする重要な媒体としての役割を果たしており、広報・情報委員会ではニュースレターをより有益なものとするべく検討を重ねてきました。
昨年 4 月に行った広報活動に関するアンケート調査では、ニュースレターのあり方として、必要な情報をよりタイムリーに、より簡便に閲覧できる媒体であってほしいという会員の皆様からのご意見をいただきました。
これらを踏まえ、ニュースレターの配信方法を今後は「e-Mail ニュースレター」として会員の皆様に配信することとなりました。
「e-Mail ニュースレター」とはいわゆる「メールマガジン（メルマガ）」のことです。
本会では、会員の皆様へのさまざまなお知らせや情報を随時 HP で公開していますので、それらを「e-Mail ニュースレター」として会員の皆様にご案内するといったイメージです。
お受け取りいただいた「e-Mail ニュースレター」のメール本文より、必要な情報が掲載されている HP の該当ページにダイレクトで遷移することができますので、情報にアクセスしやすくなります。
他にも、「e-Mail ニュースレター」へ移行するメリットとして、必要な情報をタイミングよくキャッチできるようになること、メールを受信した際に PDF を開く作業が不要になることなどのメリットが考えられます。
今号（95 号）および次号（96 号）は、PDF 化したニュースレターの配信に合わせて、「e-Mail ニュースレター」を試験的に配信いたします。そして、97 号以降は「e-Mail ニュースレター」へ完全移行する予定です。
以上のように、ニュースレターは「e-Mail ニュースレター」へ移行し、会員の皆様にとって有益な情報をお届けできるよう、工夫を凝らして参りたいと考えています。
会員の皆様には、「e-Mail ニュースレター」への移行についてご理解いただけますと幸いです。
どうぞよろしくお願いいたします。

～マイページを活用されていますか？（会員向け）～

今回のニュースレター 10 頁でも「会員交流会の詳細」や「会員情報の登録」について触れられているマイページについてお知らせします。

マイページには、本会 ML で過去に配信された研修会や交流会のご案内、他の学術団体からの情報などを時系列に閲覧することができる「お知らせ」のコーナーがあります。ML で配信された情報が一目で確認でき、大変便利ですので、ぜひご活用ください。

〈マイページ「お知らせ」へのアクセス方法〉

1. 本会 HP トップ画面の「マイページ（学会員専用）」をクリックしてください。
2. 「マイページへログイン」の画面で数字 10 桁の会員番号とパスワードを入力してください。（はじめてログインされる方やパスワードを忘れた方は画面の指示に従ってください）
3. マイページの「お知らせ」をクリックすれば、ML で配信されたメールを確認することができます。

その他、マイページでは会員情報の変更、会費納入状況の確認などにご活用いただくことが可能です。

News letter 編集後記

少しずつ人の流れが戻ってきた年末年始をどのように過ごされたでしょうか。私は初詣でおみくじを引いたら“新しいことを始めると吉”と出ました。今年から e-Mail ニュースレターの配信も始めます。紙媒体の方が読みやすいというご意見もいただいておりますが、時代がデジタル化する流れと共にペーパーレスへの変化が必要です。最終的にこの新しい試みが吉と出ますよう、工夫していきたいと思います。（神澤）

広報・情報委員会
寺岡征太郎（帝京大学）
神澤　尚利（東京医科大学）
中戸川早苗（北里大学）
永江　誠治（長崎大学）
瀧　めぐみ（金沢医科大学病院）
（お問い合わせ）メールアドレス：japmhn.pr@gmail.com

本会ホームページ　Twitter　Facebook

（一社）日本精神保健看護学会事務局：〒 100-0003　東京都千代田区一ツ橋 1-1-1　パレスサイドビル
TEL:03-6267-4550 FAX:03-6267-4555 E-mail:maf-japmhn@mynavi.jp